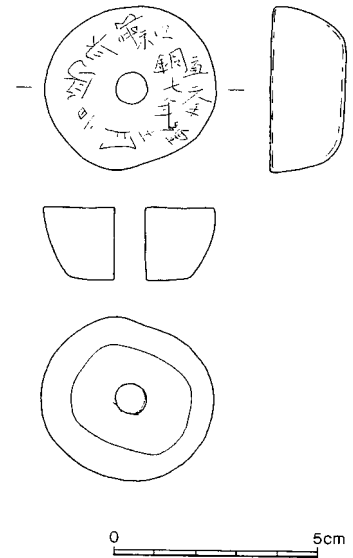


日野市指定有形文化財（考古資料）

落川遺跡出土石製刻字紡錘車



石製刻字紡錘車

（「和銅七年十一月二日鳥取部直六手縄」）

落川・一の宮遺跡は、多摩川右岸の沖積微高地上に立地する遺跡で、縄文時代から近世までの各時代の遺物・遺溝が検出される質・量ともに豊富な遺跡として知られ、その一部は「落川遺跡」として東京都の史跡に指定されている。

この石製刻字紡錘車（糸を紡ぐ時に使うおもり）は、落川・一の宮遺跡内の区画整理事業に伴って行われた調査で検出した住居跡（S I 3 6）の床面から出土した。

発見された紡錘車は、暗緑色の火成岩製であり、上面径 4.2cm、下面径 2.7cm、厚さ 1.8cm の載頭円錐形^{せつとうえんすいけい}を呈し、重量は 54.6g である。中央に 7mm の円孔^{うが}が穿たれ、全体は研磨によって仕上げられている。側面や上面を中心に調整痕ともキズともつかない小さな打ち欠きが少なからず見られ、また、下面の円孔周辺に、使用によるものか若干の擦痕が認められている。

刻字は、上面に施されており、「和銅七年十一月二日鳥取部直六手縄」と読める。全体に字の刻みは鮮明で、筆運びすら感じさせる字体である。「和銅七年」は西暦 714 年にあたり、「鳥取部」（とりべ）は品部（古代の組織）のひとつで、「直」（あた）は姓（カバネ）、六手縄（むてなわ）は人名とみられる。

この紡錘車は、「和銅七年」という刻字が施された 8 世紀初頭の確実な文字資料であることが重要であり、武蔵国府近隣のこの地における律令体制の広がりを示す資料として、また日本の古代社会史を考える上で、大きな意義を持つ資料である。

【参考文献】

『おちかわ』 一日野市落川土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書－ 1998 年 3 月 日野市落川土地区画整理組合発行 落川区画整理地区遺跡調査会編

平成 14 年 5 月 13 日指定

所在地 日野市神明 1-1 2-1

所有者 日野市

（見学の際には、事前にお問合せ下さい。）

問合せ先 日野市教育委員会 生涯学習課 文化財係（042-585-1111）Email: bunkazai@city.hino.lg.jp

※無断転載・使用及び別の媒体に収録して再配布する等禁止。(C) Copyright Hino Board of Education All Rights Reserved.